

アメリカが言う「対テロ戦争」とは何か、

知るべき時ではないか(1)

2015・2・19

須田 稔

日本で言えば亡くなった加藤周一さんのような「知の巨人」である言語学者のユダヤ人ノーム・チョムスキーを、ぼくは信頼し敬愛している。鶴見俊輔監修『ノーム・チョムスキー』(リトル・モア刊・2002年)を再読した。テロについて考えたいからだ。

アメリカの対外援助は先進国で最少、だが軍事援助はかなりの規模になる。

ノースカロライナ大学のシュルツ教授は20年前の論文で、アメリカの援助と人権侵害に非常に強い相関関係が在ると指摘。市民に拷問を行い、甚だしい基本的人権侵害をおこなっている国に偏っていると。

ペンシルベニア大学のハーマン名誉教授は、アメリカの対外援助と拷問に不気味なほど強い相関関係が在ると説明。さらには、対外援助と投資環境の好転との強い相関関係も発見。

第三世界の投資環境を好転させる方法は、「労働組合や農民のリーダーを殺害すること、宗教者を拷問すること、農民を虐殺すること、社会保障プログラムの土台を揺るがせること、などがある」、とチョムスキー教授。

二人の研究成果が発表されたころ、レーガン大統領が就任。彼は「テロとの戦い」を外交政策の焦点にした。政権が目をつけたのはテロ多発の中米と中近東。

1980年代 中米では約20万人が虐殺され、難民・孤児100万人以上。**ニカラグア**にはアメリカが直接攻撃。ニカラグアは訴え、国際司法裁判所は、アメリカを国際テロ、違法な武力行使、国際条約違反で糾弾、犯罪行為の中止と多額の賠償金支払いを命じた。アメリカの対応は判決無視、攻撃の激化だった。ニカラグアは国連安保理に訴えたが、アメリカは拒否権を行使。無法者国家アメリカ。人でなし国家アメリカなのだ。

エルサルバドルでは、アメリカ軍は「解放の神学」を敵視し・カトリック教会の大司教の殺害で開幕、イエズス会神父六人の殺害で閉幕という蛮行。

中東では、1982年、イスラエルは**レバノン**攻撃。アメリカがゴーンラインを出し武器供与、安保理で拒否権行使を行使。占領地域の諸協議からPLOを排除。

パレスチナ側の対話・協議という提案の脅威を挫いたから、大成功だったのだ。

「アメリカ政府はテロの定義を「政治的、宗教的、もしくは他の目的で、脅迫や恐怖を誘発するために、民間人に対して脅しや暴力を行使すること」としている。中米や中東でのアメリカの行為はテロか侵略戦争か。

中東でのテロのピークは1985年、ベイルートで車の爆弾が仕掛けられてモスクから出る80人が死亡、250人が負傷。狙われたのはイスラーム指導者だったが、難を逃れた。数ヶ月後、イスラエルによるチュニス爆撃。**チュニジア**人とパレスチナ人七五人が死亡。アメリカが深く関与。シュルツ米國務長官はイスラエルの外相に祝辞。国連安保理が全会一致でイスラエルを糾弾したあと、賛辞を撤回。1985年3月のイスラエルによるアイアンフィスト作戦。規模不明。

この時期、南アフリカの、内部のことはさておき、周辺諸国に対して行った略奪行為の犠牲者は推定150万人。1988年当時、南アフリカはアメリカの大事な同盟国で、ネルソン・マンデラ率いるアフリカ民族会議は「世界で最も悪名高いテロ集団の一つ」とされていた。10年以上に及ぶ**ヴェトナム**戦争も「南ベトナムのベトコンによるアメリカへのテロ」とされていた。

ここに例示したアメリカ・イスラエル・南アフリカの武力行使はテロとはされない。報復テロないしは正義の戦争とされる。アメリカとその同盟国に対するテロのみがテロなのだ。

「**満州国**や**中国**北部で日本人がやったことも同じ。日本軍は住民にこの世の天国をもたらし、**満州民族**の国民政府を**中国**の無法者から守った」ということになる。

1990年代。アメリカの軍事援助額は対トルコが最高。99年以降は**コロンビア**がトップ。トルコは地理的にソ連・中東と近接、戦略的に重要な位置に。トルコ軍の武器の80%をアメリカは供給。主としてクルド族に国家テロを行っていたトルコ政府。1999年発行の国務省年次報告で、トルコを「テロに対抗する積極的な取り組み」があったと言及。

テロのもう一つの種類に、禁輸措置がある。アメリカは対キューバで半世紀以上つづけている。ごく最近、関係は正の動きをアメリカが始めているが。